

令和6年度 2月 定例教育委員会会議録

令和7年2月18日(火)

山梨市教育委員会

令和6年度2月 定例教育委員会 議事録

令和7年2月18日(火)午後1時30分から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録の署名
- 4 協議事項
- 5 連絡事項
- 6 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育委員	窪田 新治
教育委員	原 喜雄
教育委員	鈴木 徹 (オンライン)
教育委員	相沢 季里

○事務局職員出席者

学校教育課 課長	磯村 賢一
学校教育担当 教育監	小串 吾郎
学校教育担当指導主事	内藤 健
学校総務担当 リーダー	大畠 芽久美
学校総務担当(議事録作成者)	小田切 咲紀
学校教育担当 リーダー	前嶋 裕樹
学校管理担当 リーダー	高原 あゆみ

生涯学習課 課長	武井 学
スポーツ振興担当 リーダー	雨宮 有

4 協議事項

教育長

議事に入る。(1) 総合教育会議について、事務局から説明をお願いする。

○義務教育学校について

学校教育課長が資料にそって説明

教育長

今回の義務教育学校の特色として、2名の、全体としては4名の加配をお願いしてある。資料の一番最後のところになるが、まず低学年の学年主任ということで、1年生は単級なので、2つのクラスに1人のベテランの先生を主任としておく。この先生はフリーである。中学年3・4年生にも1人の教科担任、主任教諭を置く。もう1人は理科専科の先生で、3年生から8年生までの理科を教える。7年から8年はTTのような形で入るかもしれない。もう1人は数学の先生で、この先生は数学の専科とともに予想される取材とか視察だとか、広報の担当をこれ以外に持ってもらうような形になる。教科担任が持つ授業は、1年生については音楽・図工、外国語は低学年にはないが、プラス1のような形でやるので、現状25と26時間の終日時数から5時間を引いて、21時間と22時間の持ち時数で軽減されるということになる。

3・4年生は音楽・図工・外国語・体育・理科ということで、同じように3年生の理科が18時間、4年生の理科が18.6時間になる。5・6年生はさらに増えて、家庭科・算数・理科が加わる。実際は11.5であるが、あまりに少なすぎるので、高学年の先生が3・4年生の体育をみるようなイメージで理数を調整している。P5指導体制の資料に各学年の持ち時間と、先ほど言った専科の先生の持ち時間があり、青、水色系統が専科教員の先生が持つところ、黄緑色のところが学級担任が持つところになるようなイメージである。

低中学年主任の勤務シミュレーションで見てみると、例えば、朝出勤をして普通の学校だと担任の先生が教室にいるか、あるいは登校を渋っている子を迎えて玄関にいる。でもどちらから一方にしかいられないので、こういった時にこの主任の先生が渋りがちな子だとか、あるいは何か具合が悪い子を玄関で迎えて、学級担任は教室で子どもたちを迎える。朝の会には欠席の確認を代わってやってくれる。1校時は2年生の国語にTTで入る。2校時は、例えば1年生の先生が新採用で経験が少ない場合は主で入ったりというパターンがあるかもしれない。中休みは交代で、校庭で一緒に遊んだりということもある。3校時の音楽は専科の先生の授業なので空き時間になり、こういう時には打ち合わせをする。4校時は特別活動ということで、担任だけになるので、専科の先生は空き時間になり、こういう時間に採点を手伝ってもらったりできる。また、お便りを印刷したりするようなことには当てられるかもしれない。給食体育は合同で一緒にやる。

PBLというのは、プロジェクトベースラーニングと言って、問題解決学習のことである。この計画立案を担当してもらう1人として空き時間にやってもらうイメージになる。これが加

配の1つの体制である。加配がだんだん減らされることを考えれば、いずれ児童数が減ってきた時に今は1・2年生に1人、3・4年生に1人だが、後者を考えていて、小学校の1年生から4年生に1人の体制になってもそれほど困らないというか、有益性が高いのではないかと考えているところである。

本市の義務教育学校の特徴は4・4・1に分けているところで、最後の1年のところは、今の中学校の方でこだわりを持って、キャリア教育に特化した1年としたいということで、9年を特出している。5年から8年生の特色は、異学年による縦割りの活動、そして地域の課題を捉えた体験的な学習ということが挙げられており、これがプロジェクトベースラーニング。今、文科省でも使い始めたり、山梨大学でもこの言葉を使った研究が始まっているので、あえてこの言葉を使わせてもらった。いわゆる問題解決型、強化横断型の学習というイメージでいいと思う。SBLというのは、サブジェクトベースラーニング、いわゆる教科の学習になる。この中では、先ほどの主任教諭とか、あるいは高学年を持って時間数が余っている先生が自然環境あるいは栽培食料ボランティア、造形デザイン飼育生命というような、将来の職業やキャリアに関係するようなテーマを受け持ち、これを縦割りの子どもたちと一緒に学んでいくということ。週2時間なのでどこまでできるかわからないが、例えば万力公園のカピバンの世話をボランティアにしに行くとか、地域にいるイラストレーターの人に看板の作り方を教えてもらうとか、そのような活動を考えてもらいたいということで担当を置いた。

全体的には、学年主任の配置とPBLということが大きな特色になってくるかなと思う。こんなことをイメージし、たたき台にしてもらいながら、今、各学校の方で研究を進めているような感じである。

○学校施設長寿命化について

学校教育課長が資料にそって説明

目的は、学校施設の長寿命化ということで、中長期的な視点で修繕改築維持管理等にかかるトータルコストの資源や予算の平準化を図りつつ、学校教育施設の求められる機能・性能を確保することを目的とする。すでにこれは2021年から計画が策定されて実施されてきており、原則として5年ごとに見直しがされ、見直しが来年度されるという内容のものである。

長寿命化の計画の基本的な方針とすると、学校施設は少子化の動向を見据えた適正な学校規模とするため、施設の廃止、複合化集約化用途変更等により総量の適正化を図り、今後維持する学校施設については、予防保全の実施及び計画的な大規模改修、長寿命化改修や更新実施により回収・更新費用を縮減する。

期間の集中化を避けて、予算の平準化を図る。現在使用していない学校、一部の教室を含むということで、有効活用も合わせて検討していくとなっていたが、2021年からコロナの時期に突入していたので、この計画が進んでいなかったということに加え、大きく見直さなければならぬ時期に来ている。こうした中で校舎、体育館の修繕箇所もだいぶ増えてきている。また、体育館への冷房設置を要望する、使用していないプールを解体して駐車場にしてほしいというような要望も挙げられているということもあり、笛川小中の義務教育学校の導入を検討されていることから、こうした課題を整理して、計画的に見直していくというよう

なことを進めていきたい。

○部活動の地域展開について

生涯学習課長が資料にそって説明

以前は部活動の地域移行という言い方をしていたが、地域に展開していくという意味合いから、文部科学省の方で名称を変更した。

国の動向についてであるが、全国的に少子化が進行しており、部活動そのものが減少している。そして、生徒が希望する活動がしにくい環境となっている。国では、スポーツ庁や文化庁などが新たなスポーツや芸術文化環境のスポーツに向けた部活動改革を推進しており、令和5年度から全国の中学校で休日の部活動の地域展開を段階的に進めており、山梨市もこの実証事業に参加している。令和8年度からは、全国で本格的に実施される予定となっている。

課題としては、指導力や技術力を持った指導者の確保ができるのか、また、先進地などでは参加費が必要となるケースもある。指導者の報酬や会場の確保、移動の問題、持続可能な運営のために必要な組織の形成大会の参加や、その運営への影響などについても検討が必要となっている。

山梨市の目指す姿としては、部活動の意義と目的を大切にしつつ、学校と地域競技団体の協力により部活動改革を進め、地域総ぐるみで子どもを育てる環境づくりを重視することとしている。

令和5年度から部活動の地域移行に向けた実証事業において、山梨南中モデルケースとして試行的に開始した。現在、山梨市では5つの部活動について活動を実施しているが、教育委員会も含め、現場では戸惑いも生じており、部活動に熱心な教員や、厳しい指導を期待する保護者もいるため、共通理解を図ることが難しい状況である。

令和8年度からは、学校の部活動は平日のみとし、土日の部活動を行わない代わりにスポーツ文化ボランティアなど、それぞれのものに関する地域の団体や活動を受け皿として整えることを考えている。地域クラブ活動への地域展開に向けた準備として、学校や保護者への説明会を実施し、生徒の多様なニーズに応えるため、約20の地域クラブ活動の立ち上げを目指し、活動場所指導者時間の3つの基本項目をもとに、計画策定予定である。

教育長

今の3点がこの後の総合教育会議の議題になっているが、形としてはどういう協議をしたらいいか。それを事務局の方から提案いただきたい。

学校総務担当 L

今の説明を受けて、教育委員さんのお考えを忌憚なくお聞かせ願えればと思う。

原委員

内容がまだ入ってこないが、その入口ぐらいの話の意見は言えると思う。

相沢委員

長寿命化計画については、平成 25 年インフラ長寿命化基本計画からこれが出てきたということと、そのメリットをいくつか話をし、あとはただ建物のことだけではなく、統廃合等というようなことも考えなくてはということで、例として岩手小学校を出し、そんなような話をしたい。あとは県の方で 25 人学級を進めていて、人数が減るからクラスが余ってしまうような気もするが、実は学級数の確保が必要とされるかもしれないし、特別支援の子たちが増えていけば、それぞれの特性に応じたクラスが必要かもしれないというようなことを言うつもりである。

教育長

長寿命化のところで、内容は今みたいなかんじでいいのか。

学校教育課長

いいと思う。統合とかそういったところにも言及して。総合的な話になるが、児童生徒数が減少しているので、そういったところの見直しも必要ではないかということと、全体的に施設が老朽化しているので、どこから着手しなければいけないかということも考えていかなければならない。ここへきて、体育館に冷房をとという要望もあったり、学校施設周辺も使われてないプールがそのまま残っているということも、懸念している。そういったところは前の計画には入っていなかったが、それも盛り込んだ中で計画をというような形でお話いただくとありがたいと思う。

教育長

少なくとも1人のテーマ 20 分ぐらいは時間がかかるのか。

学校教育課長

全部で1時間半、市長も話すので1つのテーマで15分から20分くらいだと思う。

教育長

施設、長寿命化に関して、鈴木委員、何かあるか。

鈴木委員

やはり施設の劣化はしてくるので、優先順位をつけて、トイレや外壁とか対応していった方がいい。岩手小もそうだが、どんどん児童生徒数が減ってくる。ただ今後の部活の地域展開も考えると、コミュニティになったり、またそういう部活展開のための施設としては、学校は十分今後も使えていくと思うので、学校だけではなくて、今後のあり方も考えながら、施設を強化し、災害に耐えられる施設を継続して補修していくっていいのかなと思う。

他の事例としては、鹿児島県の我々が行ってる陸上競技の施設であるが、もともと高校が閉校されたところを陸上競技場として今使っていて、グラウンドにトラックをしっかりひいて陸上競技場になっている。室内の競技場を作って武道場を筋トレ場にしたりとかして有効活用してい

る。それも県が運営しているので、そこは正直日本のオリンピックが一番行っているところでもある。ずっと貸し切りなしで、いつでも使える状況である。そういうこともまた学校の使い方としては考えられるので、なかなか壊したり作ったりするのは大変だと思うので、残しながら利用の仕方を変えていくってところはいいいのかなというふうに思っている。

教育長

大変参考になった。

原委員

事務局が説明して、その後教育委員が積極的に発言するということだが、その方向性や問題は教育委員会のみではなく、まさしく総合だから市ぐるみで支援をお願いするようなことを少し絡ませていくということではないか。

学校教育課長

ご意見を積極的にこの事業が進むように後押しをしていただける形でお話いただければと思う。やはり予算をつけるのは市長で、最終決定は市長なので、取り組み優先順位があるので、計画を立てる中でもそれが実際計画通りにいけるように、絵に書いたもちじゃないというようなことを強くご提言いただくとありがたいと思う。

原委員

部活動の地域展開の生涯学習課に担当者がいないようなことを聞いたが、どうなっているか。

生涯学習課長

スポーツ振興担当でやっており、リーダーと主に中心となっているのは、青少年カウンセラーの先生である。

原委員

去年は生涯学習課の担当とカウンセラーの先生でやったが、今年は正直な話なかなか出向かないので今年は担当者がいるのかいないのかということを指導者からも聞いた。そこでお話したこともあったが、その後なかなか姿が見えないという話をまた聞いた。人的支援が必要なのではないか。スポーツ関係でその2人だけで、これからクラブを5から20に増やすってことはとんでもないことだと思っている。クラブ数が去年5で、今年も5で、来年20にするというのは、申し訳ないが、考えてとても無理だなと思う。モデルケースとして試行というからには実際にやっているのかと思うとやっていないと聞いている。再来年までに20人を1年間で仕上げることができるのか。そのために何が必要かということは人と物とお金というところで訴えたいと思う。

教育長

縦軸に競技が上がっているが、その中身を見ると宛職みたいに教員の先生の名前がいつ

ぱい入っている。これは本来の地域以降の受け皿ではない。ラグビーもあるけど、これは教員だからダメって言って、ダメ出しをいくつもした。もう部活イコール部活ではなくて、図書館のボランティアでも、万力公園の飼育のボランティアでも、根津記念館の手伝いでも何でもいいから、とにかく縦軸にどんどん上げていく中で、教員ではなくて地域の方がやっているものに加えてもらう、あるいは手伝ってもらうというようなものを至急作るようにと指示を出した。そこは責任を持って、今年度中に縦軸だけはきちんと揃えて、場所と時間と講師という軸を埋められるようになってことで話をした。受け皿になるからには20ぐらいないとやっぱり対応できない。2つ掛け持ちしてもいいからということで、来年は生涯学習課の中に中学校の先生の経験があるような人を置きたいとは思っている。そんなことで7年度が大変重要になってくると思う。

原委員

市役所のグラウンドでグラウンドゴルフを結構やっている。お年寄りのスポーツであるが、従来の部活動の種類から視点を広げるとそういうお宝としての人材はいっぱいいるので、そう視野を広げることも大切だと思う。

教育長

原委員がおっしゃったとおりの構想でどんどん進めて欲しいと思っている。また発破をかけて動きたい。

山梨ではどうしても部活をどうしようかという理屈とか考え方が頭から離れないので、8年度からは学校の部活は土日にしないとすると、子どもたちの時間や体が余るから、受け皿を考えようという考え方で行こうということで、中学校の先生とも共有しているが、この考え方はいかがか。

鈴木委員

そこはいいと思う。ただメジャーなスポーツのサッカーとか野球ならそのまま移行できると思うが、私は部活というよりも、サークルとか教室のような形の方が受け皿としてはいいのかなと思う。そもそも問題点として、他の県ではやっているが、まず人材バンクが作られていないということ、そこにコーディネーター役の方がいないってことがあるので、まずそこに市内に、例えば先ほど原委員からもあったが、グラウンドゴルフで、例えば土日やってくれる人を見つけて、そこをお願いをすればすぐ広がると思う。まずはその人材を確保しないとイケない。これやりたい、あれやりたいと先生をどこからでも連れてくるわけにはいかないなので、まず市内にいて土日にお手伝いいただける方にお話をしていく。資金もすごく大事になってくと思うが、まずは市が何ができるかというところが一番のスタートかなと感じている。

窪田委員

部活動が大きなウェイトを占めていて、中学校の生徒とか保護者の意識を変えるというところが、一つ成功につながるかどうかというところかなと思う。先生たちのために土日の部活を配慮しようということだから、土日に先生たちが出てきてやったのでは意味が無いというところもあるが、やがて軌道に乗ってきたら、例えば自分は学校の中では野球をやらされてるけ

れども、本当はサッカー専門で、社会人として社会人サッカーをやっているの、サッカーの指導を子どもたちにしてみたいというような方ももしかしたらいると思う。教師は基本的に休んでほしいが、中には土日のどちらかくらいはお手伝いしてもいいよみたいなことでやっていく必要もあるのかもしれない。ただその時に、やっぱり現職兼業ということを認めていかないと、なかなか厳しいというところもあると思う。

原委員

意識を変えるって意味で何回も言っているが、もう全クラみたいなのも部活動意識を変える意味で、やらなきゃならないクラブ活動ではなくてやりたいクラブ活動で、選択肢の1つに「学校のクラブ活動はやらない」というのを作ってあげる。競技としてのクラブ活動は、学校ではもう務まらないということが従前からの課題である。急にはできないが、やっぱり東山梨だから甲州市と連携してアプローチしていくということができないのかなと思う。

教育長

(2) その他で美祢市との交流事業について、事務局から説明をお願いする。

生涯学習課長が資料にそって説明

平成14年から行われてきた山口県美祢市との交流事業について、年月が経過する中で両市の間に温度差が生じている。美祢市までの移動時間も長く、また山梨市内に宿泊施設がないためハケ岳まで行って宿泊している状態である。今後全面的に事業の見直しをする必要がある。あまり過重な負担にならないような感じで今後進めていきたい。

教育委員

承知した。

教育長

以上で議事を終了する。